

おれんじニュース

No313

2016年4月号



2016年3月5日、元井谷の第2登山口から仰烏帽子をめざした。すぐに福寿草の群生だった。

今月号の記事	県連の行事案内(アルパインクライミング)・水曜登山の案内・セルフレスキュー・黒髪山&藤の尾梅園・諫早街道歩きパート2・釈迦ヶ岳、御前岳・仰烏帽子
--------	--

	2016年4月	2016年5月	時間	場所
定期総会	9日(土)		13:00~16:30	西諫早公民館
運営委員会	12日(火)	10日(火)	13:30~15:30	
全体集会	27日(水)	25日(水)	19:00~21:00	

水曜登山・2月24日



黒木の登山口
周辺に咲くセリ
バオウレン



民宿の庭では
もうマンサクが
さいていた



大モミの木
の前で集合写
真撮影



大もみの木
を下から撮影

3/5 仰烏帽子にて



仏石の岩で
昼食になりました。



あっちこっ
ちに咲く福寿
草



仏石にも
登りました。



2016 /4 月の山行



	自然保護部	ひまわり山行部	山行部	技術研修部
月/日(曜)	4/8(金)	4/15(金)	4/23(土)	4/29(金.祝)・30(土)
山名(行事)	天山	浄土山	基山～九千部山	市房山・天包山
地 図	古湯・小城(佐賀)	古枝(佐賀)	不入道・中原 (福岡・佐賀)	市房山 (熊本・宮崎)
集 合 場 所	諫早駅裏 8:00 西諫早駅 8:10	西諫早駅 8:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
難 易 度	体力 1 技術 1	体力 1 技術 1	体力 2 技術 1	体力 2 技術 2
帰 着 時 間	17:00	16:00	20:00	20:00
歩 行 時 間	3.0h	3.0h	5.0h	29:1.5h/30:5.0h
交 通 手 段	マイクロバス	マイクロバス	マイクロバス	マイクロバス
宿 泊 施 設	日帰り	日帰り	日帰り	湯山温泉民宿
温 泉	あり	あり	あり	あり
参 加 費	2,500 円	3,000 円	4,000 円	15,000 円
申 込 期 限	3/31	4/9	4/16	4/20
集 約	山口	林孝子	高森(24-0561)	山下文代
備 考	佐賀県小城市のシンボリックな山です。あめ山にも登ってみましょう。	十三佛・岩屋観音等極楽？浄土を巡ります。岩場の得意な人は絶景が見られるかも？	基山から九千部山まで九州自然歩道を歩きます。2/6の続きです。	アケボノツツジの咲くころをねらいました。温泉もいいですよ。
感想文提出	4/18	4/25	5/3	5/10

県連行事案内……(参加申込 事務局 鎗水まで)

比叡山岩登り(アルパインクライミング)： 2016年4月2日～3日

由布高原で春の花を愛でよう

2016年4月24日(日) 参加費 4,000 円

長崎市民会館出発 7:00

技術研修部だより (参加の連絡・川原まで)

セルフレスキュー

3月26日(土) 9:30 西諫早駅

4月23日(土) 9:30 西諫早駅

水曜登山：水曜日に多良岳を中心に山に登っています。西諫早駅 8:00 出発です。

2016 / 5 月の山行



部	山行部	自然保護部	ひまわり山行部	技術研修部
月/日(曜)	5/8(日)	5/14(土)	5/20(金)	5/29(日)
山名(行事)	奥田川P～皿倉	大根地山・冷水峠	雷山(福岡県)	由布岳
地 図	八幡・徳力(北九州)	大宰府	雷山	
集合場所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 7:50 西諫早駅 8:00	諫早駅裏 6:50 西諫早駅 7:00	諫早駅 6:20 西諫早 6:30
難 易 度	体力 2 技術 1	体力 1 技術 1	体力 1 技術 1	体力 2 技術 2
帰着時間	18:00	17:00	18:00	18:30
歩行時間	4.0h	4h	3.5h	5h
交通手段	マイクロバス	マイクロバス	マイクロバス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	あり	無し	あり	湯布院の湯
参加費	5,000 円	4,000 円	4,000 円	5,000 円
申込期限	5/1	5/7	5/13	5/25
集 約	高森	山口	林孝子	山下文代
備 考	昨年 7 月中河内峠から下山したので、今回は中河内ダムから皿倉まで歩きます。稜線は九州自然歩道で整備されています。	展望が良く、筑紫平野や耳納連山のパノラマが素晴らしい。長崎街道の冷水峠歩きが素晴らしく、山家宿や内野宿の佇まいも一見に値します。	見晴らしが利かなかった昨年のリベンジ。コバノミツバツツジが見られるかもです。	由布岳の山肌をピンクに染める山桜をみることができます。岩かがみを見ることもできます。夏のアルプスに向けてお鉢巡りもできます。
感想文提出	5/18	5/24	5/30	6/10

4 月 9 日(土)13:00～16:30

オレンジハイキングクラブ第 37 回定期総会

場所：西諫早公民館第 1 講座室(3 階)

6 時から懇親会をします。参加費 1000 円 場所は「そば処田川」

「そば処田川」真崎町 1174～3☎0957-26-5359

申し込みは(事務局)鎗水さんへ



2月/3月の山行報告

2月21日(日)

黒髪山(516m)&藤の尾梅園散策(自然保護部)

(参加者): 乾、川原、工藤、國分、佐藤、高森、田中、田村、兵庫、松岡、松田、山下、
鎗水、中里、小山、小山(妻)、林、福岡、山口(19名)

(行程): 8:00諫早駅~8:10西諫早駅~8:50道の駅山内~9:15乳待坊公園~黒髪山天童岩
~11:30西光密寺~13:00藤の尾梅園~14:45道の駅山内~15:30西諫早駅~15:50諫早駅

(感想): 長治氏著「山を歩こう」の表紙を飾る黒髪山の岩峰に憧れていました。それは「雌岩」と「雄岩」と呼ばれるもので、素晴らしい絶壁を擁しています。さすがに、山岳信仰の霊山として名高だけのことはあります。さらに、よくよく形を眺めると、それぞれが、そう名付けられたのも『もつともだ!』と納得してしまうような形をしています。また、登山口の「乳待坊」という呼称さえも「雌岩」と「雄岩」に結びつけられているんだらうなあと思ってしまうですね。

当日は、前日までの雨も上がり、風もない好天となりました。19名という多くの参加者を得て賑やかな山行となりましたが、脚力に差のある集団となったので岩場や鎖場のあるコースをどう登るか?が頭痛の種ではありました。



乳待坊公園で岩峰を背景に記念撮影と準備運動を済ませ、のんびりと登り始めると「ドンク岩」が右手に現れました。これは、下見の際に見つけて勝手に名付けたもので、岩窟の奥の方で「グワッ!グワッ!」とあたかも蛙が鳴いているような音がするのです。下見の際は雨上がりだったので、てっきり蛙だと思って確かめるために岩窟を石で叩いたり、ストックで叩いたりして鳴きやめさせようとしたのですが、音は止まりませんでした。

前日の雨が岩の中を滴り流れ落ちて音を出すんだらうという結論を出したのですが、この珍しい現象を当日の参加者にも体験して欲しいと願っていました。すると、山行当日も前日が雨だったせいか、見事に鳴いており皆さんに聞いて貰えたのが嬉しかったですね。

登山口から登り始めると岩のゴロゴロした道があり、案の定、ながーあーい行列となりましたが、自然保護部の山行だということで許してもらうことに徹底し、ゆっくりゆっくり登っていきました。見返峠を経て雌岩に到着しましたが、ここでは4~5人位ずつ交代して貰って、皆さんに岩峰に登っていただきました。鎖場のある頂上まで全員で行くことは諦めていたので、ここだけは皆さんに味わっていただきたいと思ったのです。

鋭い絶壁からなる雌岩は迫力あるもので、四つん這いで登ったり下りたりして頂きました

たが、一番高い所で写真撮影をする人が居たりして『さすがに自信たっぷり、怖いもの知らずだなー』と感心したものです。ここだけでも、黒髪山に来た感じがするものです。

ここから先は、西光密寺に直行をお願いするグループと黒髪山頂上の天童岩を目指すグループに分かれて進みました。西光密寺を目指すグループは、下見を済ませていたYさんをリーダーに3人を考えていましたが、男性のKさんとFさんが同行を買って出てくださいましたのには感謝しました。下見のメンバーとして参加して貰っていたら、エスケープルートのリーダーとなって貰っても、頂上の経験はあられるからと思えるのですが...十分に頂上を目指せる方なのに...と思うと感謝！感謝！でした。

天童岩のある頂上には鎖場や鉄梯子場があり、岩登りをしているような感覚が味わえました。ここは、『登りは良い！良い！下りは怖い！！』と思っていましたが、下見の際に安全と思われるルートを開拓していたので、安心でした。やはり、下見は重要です！

西光密寺で直行グループと出会い、昼食と清掃活動を行いました。この寺は真言宗の寺で薬師如来や阿弥陀如来や十一面千手観音が本尊となっています。弘法大師様が唐に渡られる前に、無事を祈り、帰ってからは御礼参りをされ、爪彫りをした不動明王を安置されたという歴史もあります。

昼からは、伊万里の梅園「藤の尾梅園」を訪ねました。これまでの自然保護部の梅園訪問は開花時期外れが多かったのが、開花状況が不安でしたが...ホッとしました。

やく6500本の梅の木がほぼ満開で「梅まつり」の真っ最中でした。梅の種飛ばしやビールの早や飲み競争などで盛り上がっているのを尻目に、一大展望の効く最高部まで歩いて登りました。真っ白な絨毯を敷いたような中に、紅梅がポツンポツンとある様は見事なものでした。いま、紅梅を増やす取り組みが行われているとのこと...数年後には更に見事な梅園となることでしょう！4回目にして満開の梅園に当たってラッキー！でした。



(中里 記)

2月26日(金)

諫早街道歩きパート2 (ひまわり山行部)

(参加者) 福岡、中須賀、佐藤、乾、山口、林(孝)、柿森、兵庫 (8名)

(行程) JR 諫早駅 7:54-8:06 小江駅 8:20~満福寺跡~小江神社~隆信さんの腰掛け石~犬木の道祖元~和銅寺~天神尾城跡~11:00 上使屋跡 11:25~(湯江駅)~一里松跡~12:15 川上神社(昼食)12:35~追分け(多良・竹崎道分岐)~小坂~六地藏~馬頭観音・市杵島神社~阿蘇神社~14:35 川良橋~実盛神社~15:05 新田原~15:35 小長井駅 15:52-16:22 西諫早駅-16:26 喜々津駅

(感想)

諫早街道歩きは、前回の諫早神社から小江までの続きとして、残りの小江から湯江まで

歩き、湯江からは竹崎街道を小長井まで歩く。前回は時間の関係もあり街道のみを忠実にたどったが、今回は時間もタツプリありそうなので、少し横道にも入り込んで諫早の歴史や故事・伝承などが残るところも探勝することにした。したがって史実や伝説を注釈的に盛り込みましたので、文章が長くなりましたことをご勘弁下さい。

今日の地図担当は山口さん。私手製の 1/6600 地図を片手に小江駅をスタートする。

まずは小江駅近くの満福寺跡へ向かう。ここには天正年間諫早領主西郷純堯すみたかの弟で鏡圓寺の住持が隠居して満福寺という庵寺を造って住んでいた。

純堯が豊臣秀吉の島津征伐に従わなかったので秀吉の命により純堯は龍造寺家晴に諫早を追われ家晴が領主になった。

天正 15 年(1587)純堯の弟純門を総大将として西郷氏の残党やゆかりの住職、領民たちが



反乱を起こしたが敗れ、満福寺住職も切られ寺も焼き払われた。

その跡に頭の丸い石塔が置かれ和尚墓と呼ばれて残っていた。ということでこれを探してみるが見つからない。

付近が土地開発されているし、人陰もないので万事休す。一発目から空振り、残念なり。



隆信さんの腰掛け石は、天正年間肥前、肥後、筑前、筑後、豊前の五州を領し北九州の太守であった龍造寺隆信が、天正 12 年島原の有馬晴信、薩摩の島津家久連合軍との戦いに行くとき、風もないのに先頭の大旗竿が折れたので、この石の上に駕籠を置いて休んだといわれる。しかし隆信は島原沖田なかつの戦で敗れた。(畷とは湿地帯の中に延びた小道のことで、数でまさる龍造寺軍も左右の深田にはまり身動きできず討ちやぶられた)

この腰掛け石に願をかけると神経痛がよくなるというので、明治時代までは願ぼときにたくさんの旗をあげてあったそうだ。私も足腰の痛みが良くなるようにと手を合わせた。

和銅寺は奈良時代初め、和銅元年(708)行基による創建と云われ、天明天皇の勅願寺として歴号をもって寺号とすることを勅許された全国でも数少ない寺院の一つで、諫早で最も古いお寺と云われる。本尊は行基作肥前七観音の一つ十一面観世音菩薩で 50 年に一度しか御開帳されない秘仏である。最近では平成 20 年(2008)に開創 1300 年と同時に御開帳されたそうである。佐藤さんはオガタマノキを見に行った帰り、たまたま寄ったそうですが沢山の参詣人で秘仏は拝観できなかったとのこと。次の御開帳は 2058 年。42 年後だ。

その時私は 121 才、とてもムリかー！！

本堂の入口両側には鎌倉時代の運慶の作という木造の仁王様が置かれている。さすがに

年代物だ、腕や足は朽ちて一部は代用品や補強部品が使われているのがチョット無惨でもある。保存状態が良ければテレビの「開運なんでも鑑定団」ではいくらの値が付くだろうかと、不謹慎にもよからぬ妄想をする。



本堂の屋根から伝い落ちる水を受ける石灯籠型水受けの上面は古銭の和同開珎のような形をしており、和同開珎に相当する部分が五ヶ疋矢となっている。これは何だ、皆で考えてみる。真ん中の四角い穴を口にすれば吾唯足知と読める。しかし吾唯足知とはどういう

ことか誰も分からない。宿題としておこう。

本堂の裏には島原沖田畷で戦死した龍造寺隆信を茶毘にした場所があり、土盛りの塚が造られていたが、明治初年領主諫早一学により自然石の墓碑が建てられている。

龍造寺隆信の島原攻めでは、前に述べた大旗竿が折れたことや、川上神社で戦勝の祈願をして境川の釣り戸の渡しに来たとき、上流から流れてきたあきだるがくるくる回って川上へ向かって逆流したことや、和銅寺に泊まっておみくじを引いたら三度とも凶がでた等不吉なことが起こり、神官や近臣は戦の中止を進言したが剛毅の隆信は進軍し敗れた。このような伝承は五州の太守が自ら大軍を率いて戦いに臨み敗退したので、その悔しさがそのまま語り継がれているらしい。

湯江の上使屋跡は中須賀さんの奥様の実家だそうです。上使屋とは主として、時代劇映画でおなじみの幕府の巡検使・長崎奉行・佐賀藩主が長崎往来時に宿泊されていた所で、ちなみに諫早領主は庄屋に泊まっていたという。中須賀さんの招待によりここで休憩させていただく。庭に床几代わりのいすを置き、沢山の茶菓で接待を受ける。庭のしだれ梅を眺めながら殿様になった気分以至福のひとときを過ごす。奥様大変お世話になりました。

湯江には鯛を抱えた恵比寿様の石像があちこちにある。かつて魚釣りにはまっていた頃、大物を狙って釣り糸を「エベッサーン」と叫んで海に投げ込んでいたのが思い浮かぶ。

川上神社で昼食を取りすぐ近くの追分けへ向かう。ここには「左たらだけみち」「右たけぎきみち」の標石があり、右の竹崎街道へと進む。こゆき橋をわたると小坂の標石があるが、ここは入口が分かりにくく下見の時迷ったところだ。今回はスンナリと通過する。

小坂を登った大久保の台地に六地藏が立っている。その後方に大久保地区一帯の開墾の時、用水路をつくったと云われる「井出掘権右衛門」の碑が立っているらしいが見つからない。またダメかと思っていたら柿森さんが右後方の墓地の大きな木の下で発見。これでスッキリ。用水路と井出掘という対比がなかなかおもしろいと思った。

長里大久保郷は寛文・延宝(1661~80)の頃に開墾されて、開墾が完成すると領民の平安を祈念して馬頭観音堂が建立され、西の丘の墓の辻にあった観音様を移した。その後市杵島神社が合祀された。ここには文化13年(1816)建立された翁塚もあり、芭蕉の句「観音のいらかみやりつ花の雲」が刻まれている。

阿蘇神社にはナマズの絵が額装されているが、生憎改装中で中には入れない。残念。この後長里川にかかる川良橋で、早く帰らねばならぬ人、少し疲れた人達と別れる。

小長井ゴルフ場端部の山道は昔の街道の面影を残していて、少しキツイが気持ちよく登れる。みさかえの園むつみの家を過ぎるとあとは実盛神社を残すのみである。

実盛神社の祭神は斉藤実盛。平家方の武将で源平合戦では木曾義仲と戦い戦死した。

戦場で稲株につまずいて倒れ首を取られたのである。その無念をはらさんと後に稲に害をなす害虫になったという。牧名の氏神として安政2年(1772)の創建といわれ、稲の害を避け豊作を祈って祀ったといわれる。本殿の左の象鼻が欠けているのが痛ましい。

境内の狛犬は右側の狛犬が左足で玉を押さえているのに対し、左側は右足で虎を押さえていることを福岡さんが気づく。象鼻も狛犬も私は初めて見たので非常に珍しかった。



一人では気づかないものも、多くの目で見ると色んなものが見えて、新しい発見があることを実感した。しかも新しいものを見るのは楽しいことである。

新田原で竹崎街道に分かれをつげ、県道 195 号を小長井へと下り街道歩きを終了。

今日は天気も良く一日気持ちよく歩けた。次は竹崎街道の続きか、または山茶花高原越えの多良海道を歩いてみたいとの声も出て、小長井駅から JR で帰路についた。

(兵庫 記)

2月28日(日)

釈迦ヶ岳・御前岳(技研部)

(参加者) 川原、鎗水、松岡、大久保、乾、山下ち、田村、中野、高森、下釜、田中、松田、林和子、山下文 (14名)

(行程) 諫早駅裏 6:20—西諫早駅 6:30—金立—日田インター8:30—椿が鼻ハイランド(トイレ) 9:30—矢部越登山口 9:40—釈迦ヶ岳頂上着 10:30—御前岳頂上着 12:20—昼食/下山 13:00—杣の里登山口 14:30—杣の里溪流公園/同公園発 15:00—八女—広川 IC—諫早着 18:30

(感想)

前日の天気予報は雨の可能性大。「よほどの悪天候じゃない限りオレンジはキャンセルしないからな」と雨の中をしょぼく歩いて歩く自分を想像していた。当日 6 時、家を出ると濃霧。

体験上こういう日は昼前あたりから青空が広がることになっているので希望を持って集合場所に向かう。6 時半、

出発したバスは霧の高速をひた走る。時に霧の中から現れる満開の

花を咲かせた梅が幻想的で美しい。日田のインターを出て椿が鼻へと高度をあげ始めた頃やっと霧も晴れ、釈迦ヶ岳の登山口(矢部越登山口)に着いた時には頭上に青空が広がっていた。いきなり急な階段で始まったが、息が苦しくなる前に程ほどのアップダウンを繰り返す心地よい残雪の山道歩きとなった。「こんな道歩けたら、また山に来たいって思うでし



ょうね」と後ろを歩く N さんに語りかける。10 時半釈迦ヶ岳山頂着。所要時間 50 分。釈迦ヶ岳を囲んで記念撮影。すぐに御前岳へ向かったが急な下りの上にかかなりの残雪。「アイゼンがあったらよかったですか」「かえって歩きにくいよ」各々意見を言いながら用心して下る。鎖場が連続する道だったが全員無事通過。そこからはスズタケに囲まれたやはり



残雪の道。やがて、眼前に御前岳が見えてきた。どっしりとした山容。「うっ・・・き・つ・そ」最後の登りはちょっときつかった。山頂で昼食。I氏が言っていた。「落葉樹ばかりで明るくて気持ちよかったですね」そう言われるとそうだったと気がつく。ガイドブックにはブナが覆いかぶさるような尾根道とあったが裸木なのでそれを感じることはなかったが、新緑の頃は美しいだろうと思う。御前岳からも険しい下りが続いた。鎖場を下るときにはセルフレスキューで学んだ懸垂下降が大いに役立った。柚の里へ向かう道に入ると沢の音。その沢を数回渡り、最後にやや大きな岩を鎖に支えられて着地。やっとホイホイ歩くことのできる道となり柚の里にたどり着いた。せっかくだからと吊り橋を渡り、渡らせてもらったのに「この橋、何か役にたつとる？たつとらんよね」と難癖をつけながら帰路に着いた。後は恒例の「コンビニなだれこみ」の儀式を残すのみ。楽しくて、ちょっとスリリングな山行をありがとうございました。

(山下文代 記)

3月5日(土)

仰鳥帽子(1301m)(山行部)

(参加者) 鎗水、中須賀、林(和)、松岡、乾、松田、大久保、高森、川原、福岡、山下(ち)、中野、工藤、田中(静)、下釜、田村 (16名)

(行程) 諫早駅裏 6:20～西諫早駅 6:35～金立 SA7:30/7:40～鳥栖 JCT7:55～宇城氷川スマート 9:10～元井橋10:15～第2登山口10:40/10:55～仏石12:00/12:30～稜線出会13:00～仰鳥帽子13:20/13:30～稜線出会13:50～仏石分岐14:20～第2登山口14:55～元井橋15:30～宇城氷川スマート16:45～鳥栖JCT17:00～金立SA17:15/17:25～西諫早駅19:30

(感想) 3月5日、前日の予定が変更になり、天候も安定しているようで一安心。

西諫早駅出発から3時間程度で高速をおりて、町中へ出た。40年ほど前、この近くに仕事でボロアパートの2階に住んでいた事を思い出した(下は暴力団の事務所だった)懐かしい。

目的地までの車中では、K氏のよもやま話と、帰路の酒店探しが始まっている。「その先の左に酒屋」・「その角にはスーパー」、限界集落(オット、シツレイ)でも「あの酒屋は・・・年ごろ閉店した」等その記憶力はいまだ衰えを知らない。尊敬する・・・ひとりで微笑。

第2登山口をめざして、所々工事中の狭い九十九折の林道を約30分のぼって、やっと駐車場についた。幸いにして、マイクロバスのスペースが1台分あったがバスをおりると風が強く、意外に寒くてまわりの風景を觀賞する余裕はなく、準備運動後、登山を開始した。

植林帯の中のゆるやかな登りを進んだ。時折きこえる「キー」となる木枝の摩擦する音が、鳥の声、猫の鳴き声にも聞こえてきた。「木ー」?と聞こえる人もいたみたいだが・・・誰?

15分ほどで植林帯を抜け前が開けて明るくなり、落葉樹林帯にはいると前方で「あ、フクジュソウ」発見の声である。「ワーきれい」「こっちにもあるよ」と感嘆のこえを上げている。

林床にポツンポツンと黄金色の可憐な花をさかせており、枯葉のなかで輝きを増し、やさしく我々を出迎えてくれた。

おもわずみんな笑顔になり、カメラをかまえシャッターをおして「来てよかったー」と

の言葉に僕もうなずいた。

仰鳥帽子は近年、林道の延長に伴い、登山道も整備されて登山客が増加し人気の山となっている。今日も、色とりどりの登山服を身に着けた人々と出会った。その華やかさと周囲の樹林とのコントラストにカメラを向けシャッターを数回押したのだが、後姿のみで正面からの撮影には勇気が足りなかった。

その中でもO氏はいつものハイタッチの連続で（選り好みも見られたが）みんなを笑顔にさせ元気を与えている。花粉症にもめげず、実に愉快で楽しい、山はいいね！

樹林帯と石灰岩のおりなす中のフクジュソウを愛でながら進むと、前方に仰鳥帽子が遠くに見え、さらに背の低い灌木林を抜け防獣ネット沿いに進み、その先のピークを登り始めると再び「ワーすごい、きれい」の声、フクジュソウの群生地に入ったのである。

12時5分前には仏石前の窪地に到着、この直前の下りにもフクジュソウの群落がみられその中で記念撮影している何組かのグループがいたが、花を傷つけないかと気になる。

我々の班は後続の到着前に昼食を取り、「上ると危険」とある仏石の頂上に挑戦することとした。

仏石は高さ20m程度であるが急登で、途中のロープを使用しおぼつかない足取りで斜面をのぼり強風の中直立もままならなかったが、何とか4名で記念写真をとって早々に降りた。

いれかわりにF氏と5~6名が登ってくる様子を眺めていたが、さすが各氏ともベテラン、動きが速く安定しており、まるで「サル山」を見ているようであった。

仏石から仰鳥帽子までの間は特別に観るところもなく、たんとんと無言で進んだ。先頭のY女史とI氏のスピードが速く、周囲をみる余裕もなくただ前の人の足元をみて（たまに顔を上げ、失礼ながら女子のオシリも拝見した）進み、13時20分に仰鳥帽子山頂に着いた。

「やったー、登頂」ホットする瞬間である。

山頂からは360°の視界が開け、遠くに市房山・等が見渡せた。

記念撮影を終えると早速往路に着いた。途中仏石の分岐と山頂への分岐の2か所で休憩

喉を潤し、軽食をとり談笑した。第2登山口には当初予定より約2時間早く着いた。

帰路は毎回恒例のアルコールと土産の調達をコンビニですませ、車内に戻り、いつもの小宴会の始まりである。ビールで乾杯、「ウマイ」程よい疲労もありすぐほろ酔い気分になった。最高の瞬間である。バスの中では語る人、歌う人、飲む人、さまざまに時を過ごしている。最後に全員で本日の感想をのべて、19時30分無事西諫早駅に着いた。

今回の山行は急な日程変更にもめげず、予定どうりの参加者と行程を消化できたことは、計画立案されたスタッフはもとより、それを実行フォローしてくれたスタッフの尽力によるものであると感謝しています。歩行時間も手ごろで、急登もなく天気にもめぐまれ、なにより「幸福と長寿」の花フクジュソウを堪能できたことは幸運であった。

（工藤 記）





杣の里の吊り橋を👁️下から眺めるひと。👉そこを渡ってみる人。



ある日の水曜登山
 摩利支天宮→鳥甲山→二合半岳
 →萱瀬杉→大名杉



おれんじニュース 313	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡 正 廣
編集責任者 及び 編集委員	山下ちず子 兵庫芳隆、中野美津子、林和子 山下文代、鎗水律夫
発行年月日	2016.3.23
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	http://orangehikingclub.com

そろそろ、山を彩る花の便りがニュースを賑わせてきました。今月はセリバオウレン、マンサク、フクジュソウがとても綺麗です。また、山の新緑が美しい季節になってきました。来月号はその辺りの写真も桜便りと一緒に期待しましょう。(山下ちず子)